
神様のゲームに巻き込まれたんですけど...

ナガレ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

神様のゲームに巻き込まれたんですけど…

【Nコード】

N4236BA

【作者名】

ナガレ

【あらすじ】

俺こと月城命つきしろみことは神様に選ばれた。神様の暇潰しのゲームに強制参加ってなんだそれ？勝てたら願いを叶えてもらえるらしいからまあ頑張ってみようかな。

注：作者は特に何も考えずにやっています。不定期かつミス、誤字脱字があっても温かく見守ってくれば幸いです。

序章「はじまりはじまり」

目を覚ますとそこは見知らぬ場所だった。

とりあえず起き上がり辺りを見回すと床も壁も天井すらも真っ白な異様な空間だということがわかった。

「ここどこだ？部屋で寝た覚えはあるんだけど…」

真っ白な空間…か。よく読むなんかだと二次創作だここで神様とか出てきて転生とかトリップものが始まるんだけどな…

「その通りだ」

「うわっ」

つい数秒前まで誰もいないはずだった目の前に一人の男が立っていた。

「おっと、驚かせてしまったかな？」

「いきなり目の前に人が出てきたら誰でも驚くって！」

「ふむ。そういえば前にも同じことを言われたことがあったな。次は気をつけることにしよう」

…こいつ、絶対に反省してないな。

「まあ、そんなことはどうでもいい。それよりこれから君には遊戯王の世界に行ってもらおう」

「え？強制的に決定？選べたりとかは？」

「ないな」

マジかよ…なのはとか東方の方がよかったな。

「先に言っておくが君を殺した、正確に言えば死ねせたのは私だが手違いやミスではない」

「珍しいパターンだな。もしかして俺は選ばれしものとか…」

「厨二乙」

…俺もそう思ったけど人に言われるとキツイなあ。というか神様も俗世間に染まるものなんだな。

「選ばれたのは事実だがランダムに選んだ結果がお前というだけだ」

「うーん、俺が選ばれたことは分かったけど何で選んだかってのと何をすればいいのかを教えてもらってもいいか？」

「理解が早くて助かる。まずは選んだ理由だが、神というものはほぼ永遠の命を持っているのだ。私も他の神も何千年と生きてきている」

「まあそうだろうな」

「よって退屈なのだ」

「チョットマテ」

「そこで他の神と相談してゲームをすることにしたのだ」

「待てつつつてんだろ！」

「なんだ、まだ話の途中だ。静かに聞いている」

「それはあれか？俺はあんた達の暇潰しに殺されたっていうのか？」

「その通りだ」

「ふざけるな！人の命をなんだと思ってるんだ！」

「私に文句を言われても困るのだがな。元々これを望んだのは君自身なのだから」

「え？」

「私が選んだ条件は3つ。遊戯王を知っている。世界移動に耐えられる魂の強さ。そして異世界を望む、つまり元の世界から逃げ出したいと思っている人物。君にも心当たりがあるのではないかね？」

「……」

「ある。」

「そういうわけだ。話を続けさせてもらう。二つ目の答えだが君にはさきほど伝えたゲームに参加してもらう。君の勝利条件は最難関だ。最終決戦、遊城十代対ダークネス戦で遊城十代に勝利させること」

「その何が難しいんだ？十代は勝つだろう？」

「それは何も干渉しない場合の話だ。君の他にもイレギュラーが参加した場合結果はわからない。遊城十代が負けることもあればそこにたどり着くことすらできない可能性もある」

「それが他のやつの勝利条件になってるってことか？」

「いるかもしれないというレベルの話だ。他の勝利条件は知らされていない。知りたければ直接聞き出すのだな」

「ルールはこんなところだ。勝者はたった一人、君の勝利条件は難易度が高い、よって満たせば何人がクリアしていようと君の勝ちとなる」

シンプルだ。しかしそれゆえ難しい。ルールや原作の流れのことを考えていると神は手をポンとひとつ打った。

「おっと、忘れていた。勝った暁にはどんな願いも一つ叶えられる。君の願いは何かな？」

「……」

「まあ今はいいだろう。終わるその時まで決めておくことだな」

「さあ、それではゲームスタートだ。精々私たちを楽しませてくれたまえ！」

神がさういうと突然強い光が視界を遮り、徐々に意識が闇に閉ざされていった。

「変な夢……」

起きて最初にしたのはそんなことを呟くことだった。ぐるっと周りを見回すと本棚、机、パソコンやテレビなどをどう見ても自分の部屋そのものだ。

「ゲームのしすぎだな……」

しばらく真面目に勉強でもしようかな…と考えながらカーテンを開けるとそこから見えた光景に俺は目を疑った。そこにはデュエルディスクでデュエルをしている人とそこに集まっていた観客。そして現在のSOOYですら再現できないバーチャルリアリティ、暗黒のドラゴンと二頭を持つキングレックスと思われる2体のモンスターが戦っている非現実的なものだった。

「マジか？マジなのか？」

しばらく現実逃避をした後ふと机の方をみると先程は気付かなか

つたが机の横にカバンが置いてあることに気づいた。丁度海馬社長が持っていたようなアタツシユケースに妙に達筆な字で「神より」と書いた手紙が貼り付けてあった。手紙を読んでみると長々と書いてあったが要約すると次の通りである。

- ・俺の持っていたカードは一部を除き持ってきている。
- ・原作効果があるカードは持っている枚数分作成した。
- ・シンクロやエクシーズを使っても良い。
- ・全ては自己責任ということのを忘れてはいけない

ということと生活に関わる必須事項（主に戸籍や金銭に関すること）やこの時代の禁止制限リストなどが書いてあった。

「なるほどね。っていうか禁止制限ゆるすぎだろ」

無条件のバーンやモンスター破壊が禁止、一部のカードが数枚制限になっているくらいで『苦渋の選択』や『八咫鳥』などの壊れカードが無制限という某QB風に「わけがわからないよ」と言ってしまうレベルだ。これは自制したほうがいいのか？

とりあえず普段使う遊び心満載のデッキと対レギュラー用のガチデッキでも作ってGX介入を始めよう。

序章「はじめりはじまり」（後書き）

どうもはじめまして、ナガレと言います。色々なところで二次創作を読んでいたら自分も書いてみたくなったのでやってみてしまいました。今回は普通に説明回ですね。次回からはデュエルするはずですが。これから宜しく御願います。

第1話「実は十代って最下位じゃないんだぜ？」（前書き）

命「今日の最強カードは『ガオドレイクのタテガミ』だ。自分ワールド上に表側表示で存在する「ナチュラル」と名のついたモンスター1体を選択して発動する。

選択したモンスターの攻撃力はエンドフェイズ時まで3000になり、

効果は無効化になる通常魔法だ。ガオドレイクさん馬鹿にする奴は地獄に落ちればいいのに」

第1話「実は十代って最下位じゃないんだぜ？」

そんなこんなで試験当日。

いやーデッキ作るのに1週間もかかるとは思わなかった。とりあえずシンクロとエクシーズは無しでって考えて作ると難しいものだね。漫画版E・HEROにしようと思ったけどいろいろなところで使い古されてるし独自の構成にできないからパス、甲虫装機インセクターはガチすぎてドン引きだし、サイキック族がまだ存在してないし、ワンキルソリティア特化はつまらないし、ロツクやバーンは嫌われるので相当迷ったよ。ガチデッキの方は前の世界で自分が使ってたのに各種制限緩和したカードを突っ込んだだけだから楽だったんだけどね。

「次、試験番号63番。前に出なさい」

お？やつと出番か、呼ばれたから行こう。ん？試験番号が微妙だつて？そりやそうだよ。問題の難易度が鬼だったからね。例えばこんな感じ。

問 『青眼の白龍』ブルーアイズ・ホワイトドラゴンの攻撃力、守備力を答えよ。

つて定番っぽい問題から

問 『魔人ダーク・ヴァルター』の融合素材を答えよ。

覚えてねーよそんなんって言いたくなるのか

問 相手フィールド上に『岩石の巨兵』が存在し自分フィールド上に『ブリザード・ドラゴン』が存在するとき『ブリザード・ドラゴン』に『突進』を使い、その後『バースト・ブレス』を発動した場合どうなるか答えよ。

なんて調整中って答えるしかない問題があったからしようがないと思うんだ。ぶっちゃけ『バースト・ブレス』を使わずに殴れって話なんだけどね。

それはさておき
閑話休題

「試験番号63番だね、えっと名前は？」

「月城命つきしろまことです。よろしく願います！」

「うん、よろしく。では早速だが始めよう」

「『^{デュエル}決闘!!!』」

命 ライフ4000

手札5

試験官 ライフ4000

手札5

「私の先攻。ドロー！」

ちよ、遊戯王名物「言ったもの勝ち先攻決め」ですか!?

「私は『マンジユ・ゴッド』を召喚！」

マンジユ・ゴッド ATK1400 DEF1000

「そしてマンジユ・ゴッドの効果発動!デッキから『エンド・オブ・ザ・ワールド』を手札に加える！」

おま、デミスとかふざけるなコラ。

「更にリバースカードを1枚セットしてターンエンドだ！」

試験官 ライフ4000

手札5

フィールド

マンジユ・ゴッド ATK1400

リバース1枚

「俺のターン、ドロー！」

うん、手札はそこそこいい。けどデミス相手に勝てるかっていうたら微妙な感じだな。ま、やってみればわかるか。

「手札の『ナチュル・ガーディアン』を墓地へ送り『ワン・フォー・ワン』を発動！」

「ワン・フォー・ワン?聞いたことのないカードだな？」

「ワン・フォー・ワンの効果でデッキから『ナチュル・モスキート』を特殊召喚!更に手札から『ナチュル・ビーンズ』を召喚！」

ナチュル・モスキート ATK200 DEF300
ナチュル・ビーンズ ATK100 DEF1200

「そんなカードを並べても私のマンジユ・ゴツドの攻撃力には届かないぞ？」

「届かないからいいんですよ。ナチュル・ビーンズでマンジユ・ゴツドに攻撃！」

「そんなことをしても何の意味もないぞ」

「ナチュル・ビーンズの効果発動！1ターンに1度戦闘では破壊されない！更にナチュル・モスキートの効果、『ナチュル』と名のついたモンスターの戦闘によって発生する自分への戦闘ダメージは、代わりに相手が受ける！」

「なんだと!？」

試験官ライフ4000 2700

「リバーズカードを2枚セット、ターンエンドだ！」

命ライフ4000

手札1

フィールド

ナチュル・モスキート DEF300

ナチュル・ビーンズ ATK100

リバーズ2枚

「くっ、私のターン、ドロー！」

立ち上がりは上々ってところかな。ビーンズとワンフォーワンがあったから攻めれたけどここからどうしようかな、真っ向からビーンズを倒しに来てくれると楽でいいんだけど。

「手札から魔法カードマジックエンド・オブ・ザ・ワールドを発動！フィールドのマンジユ・ゴツドと手札の『ソニックバード』を生贄に『終焉の王デミス』を儀式召喚！」

終焉の王デミス ATK2400 DEF2000

ですよねー。出たな、デミス。能力値自体は上級モンスターの基

準程度しかないけどあいつの本当に恐ろしい所は…

「デミスの効果発動！ライフを2000支払いフィールド上のデミス以外のカードをすべて破壊する！」

試験官ライフ2700 700

「破壊された『黄金の邪神像』の効果発動！邪神トークンを1体特殊召喚する！」

邪神トークン ATK1000 DEF1000

「それじゃこつちも、破壊された『荒野の大竜巻』の効果発動！セツトされたこのカードが破壊された時フィールド上の表側表示カードを1枚破壊する！俺はデミスを破壊する！」

「なに！？」

危ないところだった。ドロウ出来てなかったら厳しい状況になってたかもね。ちなみにもう1枚のセットカードは『聖なるバリアミラーフォース』だった。さすが発動しないことに定評のあるカードだ。ミラーフォースエ。

「まだまだ！魔法カード『高等儀式術』発動！デッキから『ガーゴイル・パワード』と『首なし騎士』を墓地に送り『破滅の女神ルイン』を特殊召喚！」

え？

破滅の女神ルイン ATK2300 DEF2000

「ルインと邪神トークンでダイレクトアタック！」

「くうっ」

命ライフ4000 700

「これでターンエンドだ」

試験官ライフ700

手札1

フィールド

破滅の女神ルイン ATK2300

邪神トークン ATK1000

マズイ、マズすぎる。手札は『ナチュル・エッグプラント』のみ。ナチュルの下級モンスターで攻撃力1700以上のモンスターは2体のみ引けなきゃ負ける。ここで負ける二次小説なんて読んだことねーぞ。今だけ俺に宿れチートドロー！

「俺の…ターン！ドロー！」

恐る恐るカードを確認する。

緑。

…緑？魔法？あれ？負けた？肩を落としカードをよく見る。すると、

「あれ？勝った？」

「どうした、早く進めろ」

「あ、はい。俺はナチュル・エッグプラントを召喚！」

ナチュル・エッグプラント ATK1000

「そのモンスターでは邪神トークンと相打ちにしかないな。これで終わりか！」

「まだです！手札から『ガオドレイクのタテガミ』を発動！『ナチュル』と名のついたモンスターの効果を無効にし攻撃力を3000にする！」

「攻撃力3000だと!？」

ナチュル・エッグプラント ATK1000 3000

「これで終わりだ！エッグプラントでルインに攻撃！」

「ぐわあああっ！」

試験官ライフ7000

「これで試験は終了だ。結果は追って連絡するので今日のところは自由にするといい」

「ありがとうございます」

「まあおそらく合格だろう。何しろ私に勝ったのだから」

「ずいぶん自信があるんですね」

「ココだけの話さっき使ったデッキは試験用のデッキではなく私の

デッキだったからな」

「はい？今なんと？」

「いや何少し間違えたただけだ。気にするほどのことではないさ。はっはっは」

気にするわ、はっはっはじゃねーよ。《儀式天魔神》みたいな構成になってたじゃん。明らかにクロノスより強いだろコイツ。

ハア、もう疲れた。十代のデュエル見たかったけどいいや帰って寝よう。

第1話「実は十代って最下位じゃないんだぜ？」（後書き）

はい、どうも。デュエルさせてみました。使用デッキは《ナチュラル》相手は《儀式天魔神》です。正直あんまり満足していない出来です。バンブーシューとか天魔神とか使いたかったんですけどライフ4000とかあつという間ですね。ナチュラルとか氷結界のDTのテーマデッキって面白いですよ。ただしブリュとトリシュ、てめーらはダメだ。次回は翔の誘拐事件の予定です。ではまた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4236ba/>

神様のゲームに巻き込まれたんですけど...

2012年1月11日05時57分発行